生産者と消費者、飲食店をつなぎ、多様な農業人材を育てるまち

令和7年10月

～生駒市地域活力創生部農林課～

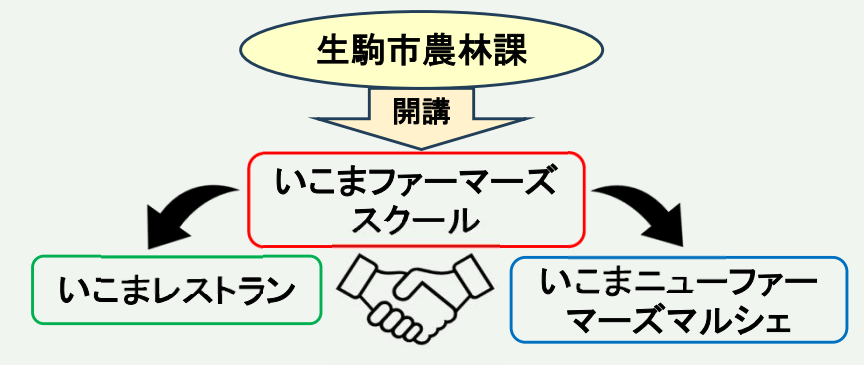
半農半Xの支援により遊休農地の解消を！

生駒市は、隣接する大阪府の中心部へのアクセスの良さから住宅都市として発展し、人口が大きく伸びた一方で、農業者の高齢化のため担い手が不足し、遊休農地の増加が喫緊の課題となっていました。

そこで生駒市では、仕事をしながら自給的農業（いわゆる半農半Ｘ）や農業に本格的に取り組みたい人など向けの講座「いこまファーマーズスクール」を令和4年８月に開講しました。

いこまファーマーズスクールの受講生と講師の皆さん

多様な農業人材を育てる３つの取組



・いこまファーマーズスクール

農業に関する経験豊富な指導員のレクチャーのもと、野菜づくりや農業に関する講習が受講可能。多様な働き方が広がりつつある中、今の仕事を続けながら専門的に農業が学べるスクールです。

・いこまニューファーマーズマルシェ

生駒市で新規就農された農業者と先輩農業者が一緒になって、生駒産野菜を販売するイベントで、新規就農者の販路確保や地産地消の推進に役立っています。

・いこまレストラン

生駒市が生駒産野菜の流通拡大を目的に令和２年に始めたもので、市内の飲食店が市内の農業者から提供された野菜を使い特別な生駒産野菜のメニューを開発。市民の試食モニターが料理を楽しみ、感想をSNSで発信する取組です。

生産者と消費者、飲食店をつなぎ、農業を盛り上げていきたい

令和4年８月にいこまファーマーズスクールを開講して、令和7年10月で第7期目となりました。毎期ごとに募集定員を大幅に上回る応募がある中、受講生は延べ100組を超え、その内数名は新規就農者として活躍する他、遊休農地の活用、農業者のサポートなどをされています。このように多様な農業人材を支援するとともに、生産者と消費者、飲食店をつなぐ生駒市の取組は、担い手不足解消及び地元産野菜の消費拡大に大きく役立っています。

【問合せ先】生駒市地域活力創生部農林課
電話: 0743-74-1111（農林係：内線2162）
（外部リンク） https://www.city.ikoma.lg.jp/category/30-4-0-0-0-0-0-0-0-0.html